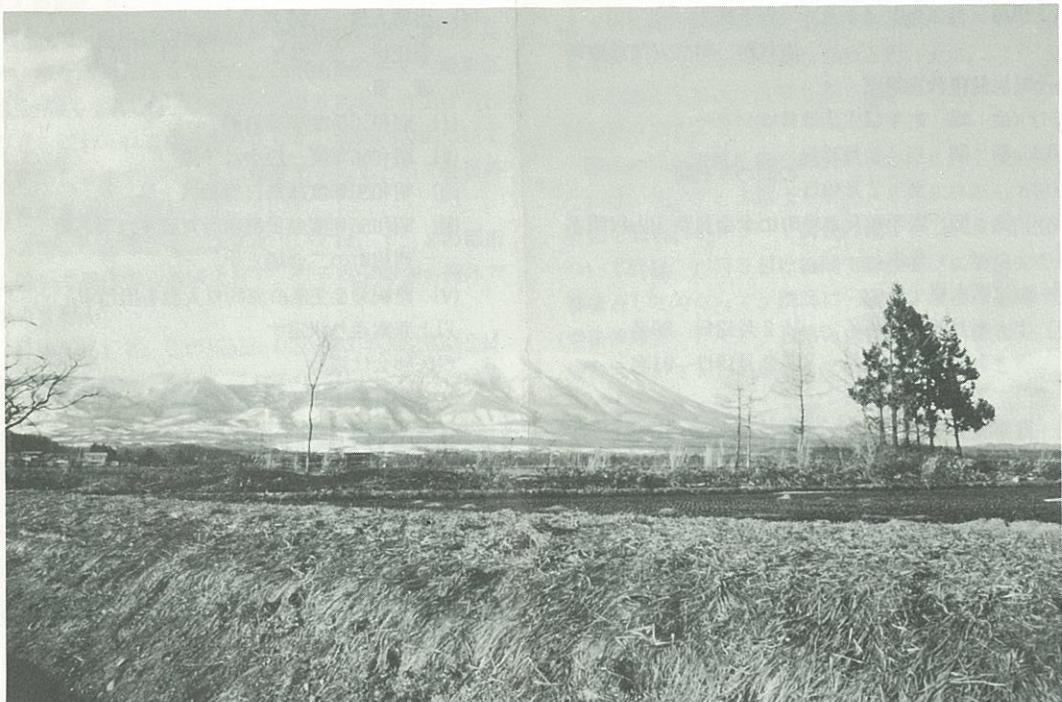


# 岩手郡医報

昭和56年4月-No.1-

編集/発行

岩手郡医師会



零石町より岩手山を望む

## 発刊の挨拶

会長 上野 精三

昭和22年岩手郡医師会が設立、以来30有5年を経過いたしました。この間色々な出来事がありましたが何分にも詳細な記録がないので只今私の脳裡に去来するものは会員の異動の如何に頻繁であったかと云うことです。

当初は会員10数名が勤務せられる、松尾鉱山病院があり又管内各町村が（3町20ヶ村）が競って設立された町村立診療所があり会員の完全な掌握も不可能な状態であります。只最近10年位は合併各町村共会員が定着したことは住民の爲誠に喜ばしいことであります。

只今日記録に残すべき事言い換れば会報の発行がなかったことは私共の怠慢にて誠に慚愧に耐えません。今回編集担当各位の御尽力により待

望の郡医会報を発刊せらるゝことは会員各位と共に誠に喜びにたえません。後世の方々に記録を残し多少なりとも参考となれば私共の望外の喜びであります。

御承知の如く今日程医療問題が「マスコミ」を賑わし又医療に対する批判がなされたことはありません。会員各位もこの批判を他山の石とせず自らもこの難局に対処せねばなりません。

このためには先ず会員間、特に地域毎会員同志の「和」が最も大切であります。今回会報の編集を担当せらる、諸先生方の御労苦に報いるため全員の思い思いの投稿を御願いいたしますして発行の御挨拶といたします。

# 55年度郡医師会行事報告

## 1. 昭和56年1月以降の新入会員

田村 公一先生（1月） 弘前医大  
滝沢村 田村産婦人科  
伊藤 稔二先生（4月） 岩手医大  
安代町 町立安代診療所

## 2. 県民健康教育講座

- (イ) 会場 岩手県生活改善センター
- (ロ) 期間 自 1月22日 の間の5日間  
至 2月19日
- (ハ) 講師 岩手町及葛巻町の全会員及玉山村岡本  
先生

### (ニ) 出席人員

1月22日	85名	2月12日	89名
1月28日	82名	2月19日	91名
2月5日	82名		

## 3. 健康開発会議

2月19日県民健康教育講座の終了式に引き続き県医  
小川英治常任理事を講師として行う。

## 4. 理事会（県医各部委員合同）

3月17日午後6時30分より西根町平館高校食堂にて  
会長、両副会長、全理事及監事 県医各部委員  
協議内容

- 1 昭和56年度事業計画
  - 2 昭和56年度一般会計予算案
  - 3 昭和56年度休祭日当番医補助金予算案
  - 4 昭和56年度県民健康教育講座の開催地について
  - 5 学校検診について
- (イ) 高校一年、中学一年、小学校一年の心臓検診  
問診表の配布について（郡医師会より配布とす）
  - (ロ) 扁平足の調査について

## —代議員会

2月28日の会議の概要は次の通り健康保険、健康教育に講師を派遣する。健康教育は本年15地区の医師会で実施したい。

労務厚生部、医師会としてすでにお手本に差上げた積立ファミリー保険に力を入れてやりたいので資料を検討してほしい。

地域医療部、医療実態調査は三月中に発表したい、脳卒中患者の調査により実態はまだこれから検討したい。

## 5. 総会

3月26日午後6時30分より岩手県川原新田ドライ  
ブインにて開催  
(イ) 出席人員 36名  
委任状 21名 計 57名

### (ロ) 議事

- (i) 昭和56年度事業計画
- (ii) 昭和56年度一般会計予算
- (iii) 昭和56年度休祭日当番医予算
- (iv) 昭和56年度県民健康教育講座は零石町  
西根町の二会場とす。
- (v) 県医師会主催の海釣り大会を担当す。

以上原案通り決定す

## 6. 県医師会代議会

2月28日午後2時30分 於会館

### (イ) 各部報告

- (ロ) 岩医厚生、医師信金、予防医学協会の現況報告
- (ハ) 議事（主ナルモノ）

- (i) 昭和56年度事業計画
- (ii) 会費、及特別会費について  
前年通りとするも特別会費は56年度には終了
- (iii) 昭和56年度一般会計予算

### 収入の部

2億6,882万5,000円

内訳 (一般会計 189,944,000)  
(建設会計 78,881,000)

### 支出の部

2億6,882万5,000円

内訳 (一般会計 207,225,000)  
(建設会計 61,600,000)

## だより

医師信用組合の現況説明あり、又貯蓄20億を達成したいので協力を願うこと。

産業医部として振動病について講習会をやり指導を行いたい。

医事紛争6件あり、3件は妥結

57年野球大会は東磐井医師会担当、又ゴルフは花巻、紫波医師会共同で新山ゴルフ場に決定

以上

## 勤務医部会から

岩手県医師会に大阪府に次いで勤務医部会が誕生してから5年の歳月を数えることになったのですが、55年12月6日には、5周年記念総会を開催し、5年間の活動報告と講演会を新装成った県医師会館で行なわれました。

結成来、県医師会勤務医部会活動は順調な歩みを見せ、年々活発となっており、日本医師会内にも勤務医会を見直して来ており、日経メカルにもとり上げられ存在を認められる迄に至りました。活動内容については省略しますが、既にその都度冊子にまとめて会員の方々に報告しております。

さて、郡医師会部会活動については、1、2の郡市を除いて残念乍ら皆無に近く、岩手郡医師会も例外ではありません。

幹事会として、この現況から、各郡市医師会部会会員との接觸を図り乍ら、会員の部会に対するひいては医師

会の認識を深める意図の下に各郡医師会で移動幹事会を年2ヶ所づつ開いて参りましたが、大いに成果を挙げられたと信じております。今後も継続実施して行く予定です。

部会活動の成果を挙げる為には、何としても活動費、部会総会費等の援助が必要であると思っておりますが、ようやく56年度は勤務医部会事業計画がとり上げられましたので、その方向に進むものと思います。

何れにしても、一人でも多く活動に参加され、会の発展を望みます。

因みに55年度県医師会部会幹事会は6月7日盛岡で行なわれ、アンケート調査を企画、9月6日釜石で移動幹事会を開き、アンケート調査の報告と二次救急医療について討議、12月6日は盛岡で総会並びに講演会を記念事業として行なって、講師に一橋大学教授江見康一先生（老後保障について）、自治医大教授高久文磨先生（生涯教育について）にお願いして盛況裡に終りました。

玉山記

## 岩手県医師国保組合会並に共済会に出席して

去る2月21日上記の会議が岩手県医師会館に於て、開催されましたが、この両会議に出席しましたので、簡単に概略を報告いたします。

### 1 先ず医師国保組合会の事業計画として

- a) 家族、従業員の入院給付割合を8割としました助産費を150,000円とする。
  - b) 傷病手当金の日額を5,000円とする。
  - c) 岩手県医師国保の保険料を下記の如く値上げする。
    - 1) 組合員1人につき年額180,000円
    - 2) 家族1人につき年額54,000円
    - 3) 従業員1人につき年額24,000円
- 2 また組合職員、都市医師会職員の場合
- 1) 組合員1人につき年額24,000円
  - 2) 家族1人につき年額18,000円
- 次にⅡ) 共済会の今年度の事業計画として
- 1) 死亡弔慰金を500,000円とする。

### 2) 傷病見舞金を日額5,000円とする。

以上の如く何れも原案通り議決されて居りますが、その他詳細については、既に配布済みの資料を参照して戴きます。

### 尚、共済会の協議事項として

医療従業員の退職金共済制度についての説明があり、それについては別紙資料を読んで戴き、会員各位の賛否を集約するようにとの事でした。

### 又、共済会の要望事項として、

共済会の重要な事業の一つとして会員並びに家族従業員の健康診断については、既に他郡市医師会に於ては実施済みで、残るは岩手郡、紫波郡のみと云うことで、近いうちに当医師会でも実施するよう努力せられたいとのことでした。

(上)井尻 正次

## 全国医師将棋大会に出席して

安代町 田山診療所

熊谷小次郎

私は若い頃から将棋を趣味として今日まで続けてきました。昨年4月7日、第20回、日本医学将棋大会が、東京千駄谷の将棋会館で開かれて多数参加のうちに対局が始まりました。私も10時から参加して楽しい1日を過ごしました。審判長は、花村元司九段で、リーグ戦で、私は5勝2敗46点で8位に入賞しました。最初は優勝す

勝

る意気込みで、出かけたのですが、全国にはやはり強い医者が居るものだと思いました。後日、当日の星取表と記念スナップを責任者の長堀先生から送って頂き、その時の模様をなつかしく思い出して居ります。次の日本医学会総会は大阪ですが、丁度大阪にも将棋会館が建設されている頃であり、今から楽しみに待って居ります。

## 健康教育部より

昭和五十五年十月八日、岩手県医師会館において、健康教育委員会が開かれました。

席上、県民健康教育講座の議題があり、昭和五十六年度より、全市、郡医師会で開催予定とのことでした。これにもとづいて、岩手郡医師会でも昭和五十五年度に開くことと致しました。岩手郡は地域が広く色々問題もありましたが、岩手県、岩手保健所、岩手県医師会の協力を得て、久慈先生を始め、岩手町、葛巻町の先生方の御協力をいただき、本年、一月二十二日より、二月十九日迄、岩手町五日市生活改善センターにおいて開催致しました。教科、講師は別表の通りで、受講数も大変多く、好評でした。講師の先生方、協力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。

昭和五十六年度の郡内開催地区については、郡医師会総会において決定したいと存じます。

## 県民健康講座日程表(56年)

月日・時間・会場	教 科	担 当 講 師	所 属	受講 人數
1月22日(木) 13:30~16:30 五日市生活改善センター	(1) 高血圧と脳内出血について	外 科 近藤 雄造	葛巻町	85
	(2) 肝疾患について	内 科 佐藤 邦郎	葛巻病院	
	(3) 消化器科疾患について	内 科 早瀬 一雄	葛巻町	
1月28日(水) 13:30~16:30 五日市生活改善センター	(4) 肝疾患特に気管支性肺癌について	内 科 西島 康之	葛巻町	82
	(5) 糖尿病について	内 科 佐々木 久夫	岩手町	
	(6) 婦人科に多い病気について	産婦人科 中村 義孝	県立沼宮内病院	
2月5日(木) 13:30~16:30 五日市生活改善センター	(7) 老人病についてその1	内 科 鹿谷 文五郎	岩手町	82
	(8) 老人病についてその2(心臓病について)	内 科 久慈 実一	県立沼宮内病院	
	(9) 付添を必要とする老人病(特に)老人の看護について	看護婦長 小松原 キク	県立沼宮内病院	
2月12日(木) 13:30~16:30 五日市生活改善センター	(10) 手術適応症の疾患について	外 科 中村 朗	県立沼宮内病院	
	(11) 脳外科について	外 科 佐渡 豊	岩手町	89
	(12) 産科について	産婦人科 板井 博毅	岩手町	
2月19日(木) 13:30~16:30 五日市生活改善センター	(13) ガンについて	内 科 高橋 司	県立沼宮内病院	
	(14) 精神病とアルコール中毒について	精神科 国本 彰	玉山村	91
	(15) 小児を丈夫に育てるには	小児科 工藤 刚嗣	岩手町	
(16) 消化器疾患について	内 科 和田 栄吉	岩手町		
	閉 講 式			

## 学校医部だより

初の岩手郡医師会報が上梓される由、誠に慶賀にたえません。心から御祝いと御慶びを申し上げます。過日、編集委員長より学校医部でも何か書く様にとの連絡を受け、さて何か学校医部幹事会の様子でもと考へて居た矢先、時既に遅く“いわて医報(No.359)”に詳細に掲載されて居りますが重点を再掲すると

- (1) 岩手県学校保健、学校医大会開催への準備促進
- (2) 心、腎検診対策の推進
- (3) 第六回北日本学童心臓病予防研究会の開催
- (4) 学校保健委員会の結成促進

- (5) 学校医部会幹事会及び総会の運営の強化
- (6) 学校PTA等学校保健関係団体との連携
- (7) 耳鼻科検診方法の検討

であります。

今日はこの紙上を借りて、連絡と御願いを申し上げます。それは本年昭和五十六年度の岩手郡学校医部では、“扁平足”をテーマとしてとりあげました。会員各位の御協力を御願いします。そして次回よりはテーマの選択にもっと討議、検討を要すると痛感して居ります。

岩手郡医師会報の初刊に際し御祝いと御願いを併記し初便りと致します。 A. A

## 趣味漫筆(その一)

近藤純造

某年某月某日葛巻病院長佐藤先生が秘蔵しているニコンS-2型、パールIII型などを携えて私のリスニングルームをおとずれたのがきっかけとなって私の懐古趣味がむくむくと頭をもたげ、戦前から昭和37年頃までにとっかえひっかえ使ったことのある数十台のカメラが無性になつかしくなり、おくればせながらこれらのカメラの収集を思い立ち、これ迄に玉石混淆名機迷機新旧とりませ非系統的に雑然と60台を超えるカメラが集まっておりスピードベースではあるが家人の非難とあきらめの声をよそに増えつづけている。

もとより何十万もするようなカメラなど買える程ゆとりがあるわけでなくライカ、コンタックス

ツァイスイコンの他の名機など及びもつかず、「俺はあく迄も国産カメラの愛好者で外国製品はお呼びでない」などとやせがまんをしているがライカの中でも3F、M・3、M4-2、とか喉から手が出る程欲しいのが本音である。しかしライカシリーズなどは初期のA型などは別として殆んどのものは金さえ積めば品物はあるのだしいつでも手に入るのでそういう代物は金の有り余ってる道楽者にあづけ、専ら安く手に入るしかも珍らしいものをと心がけているが、コレクター諸氏の狙いも同じとみえて仲々珍奇なものにはお目にかかるはず、いたずらに昔の中級35ミリレンズシャッター付のありふれたカメラが集まってきてリスニングルームの一角にある我がショーウィンドーをどでんと占領しているお粗末さである。

私とカメラとの出会いは遠く小学校の高学年の頃にさかのぼる。私の亡父は田夫野人然とした風態をしていたが—私もその血統をそのまま、受継いでいるようであるが—案外とモダンな面もあって当時隣家に町の道楽者共が集って始めた撞球に凝ってたりしたが、折畳み式の手札型乾板を使うカメラと、ピントを合わせる時に用いる冠布や木製の三脚などをどういうわけか所持していた。亡父は

書や日本画などにも趣味があり、町の写真屋兼表具師をしている人と親しくしていたのでその人からの借り物か譲り受けたものか定かではないが時々冠布をかぶって外の景色などにレンズを向けピントグラスに写る倒立天然色の映像に魅せられ、「ああ早くこういうカメラを使ってみたいものだな」と子供心にも思ったものである。しかし休祭日も休みなく診療していた亡父にとってこのカメラも所詮は飾り物に過ぎなかった様でその証拠にはこのカメラで写して貰った記憶は殆んどなく、残っている原板は後年私が盛岡中学に進んでようやくこのカメラをいじくり廻した頃の物ばかりである。

1日中診療に追われ、さて一家団らんの写真でも撮ろうかという頃にはとっぷりと暗くなつており、今の様に手軽にストロボでパッパッとという訳にはゆかなかつたので止むを得なかつたかも知れない。一日の仕事が終え晩酌のあとでさもいとおしそうに布でカメラを磨いていた亡父の姿が現在の私の姿と同じかも知れない。この頃の国産カメラは殆んど海外カメラのイミテーションで、このカメラもいつの間にか姿を消してしまつたが今文献などで調べると、小西<sup>カミナシ</sup>で出していたリリーのある型だったようと思える。今手許にあったらといつも残念に思つてゐる次第である。

私が盛岡中学に入り寄宿舎に入ったが、この頃買ったのがかの有名なトーゴーカメラであった。小さな変哲もない木箱に種板と白画面像定着液とセルロイドのパット付きでたしか桜山神社の近くに店があつて今までいう実演などをやって少年の間では仲々の人気であったがこのカメラで風景や友人などを写して結構楽しんだものである。因みにこういった古いトーゴーカメラなどのたぐいは今やコレクターの間では垂涎の的で何万という馬鹿げた価格で取引きされている。(次号につづく)

## 雑談

高橋 牧之介

滝沢は県下第一の人口急増の村、そして私の住む鶴飼は、その中でも最も増加率が高くここ10年間に人口が4倍になったそうだ。そこで村は都市化されて行くが、長い間続いて来た村民の意識は急に変わるものではないらしい。農村的なものと、都市的なものとが混在し、純朴な農村の人情や風習が、当院の待合室や診察室でも始終見かけられる。

○昨年末亡くなられたが滝沢村唯一の名誉村民に上田常隆という方があった。原首相の近親で、かつては毎日新聞社の社長であった。この人は、元東大長の茅誠先生と共に「小さな親切運動」を提唱している。これに刺激されたのか、滝沢村ではこの運動を推進している。

農村の共同連帯感や「小さな親切運動」などの影響であろうか。待合室での患者さん達は、知らない者同志でも「お前さんはどちらから来あんした」とか、「どこが悪くて?」などと親しそうに話し合っているようである。そしてこの話し合いは、私との間でも、診療、回診の時などによく行われる。病状とは関係のない雑談が屢々なので、忙しい時は困ることもあるが、心の触れ合いができるので微笑ましく、憩いにもなる。その話の中には、一流の評論家の高説にも劣らないような意見が交っているように思われる所以、そのいくつかを記してみる。

待合室でテレビを見た直後の場合が多いので、それに関連した意見が多い。

○病院の待合室は、老人達に談話室として占領されたというが、それは余りにもおおげさだ。どこか悪いから病院に来るのだ。病気でない者は病院には来はない。待合室で話し合ったってよいではないか。

○老人のため医療費が多くなって困るという。医学が進歩し、医療が普及すれば、体の弱い者も長生きする。その者は病気になり易い。医療を施さず、弱い者は早死にすれば、少数の丈夫な者だけが生き残り、医療費は少なくて済む。一層のこと。医者も薬もなくなれば医療費はゼロとなる。そういう世の中がよいという人はあるまい。

人命を尊重し、福祉を優先する以上、医療費の多くなることは当然で、それは世の中がよくなつたしであり有難いことである。

○大学入試の正解の間違を、外部から指摘されたが、出題した方は間違っていないといった。そして後で間違いを認めたことがあった。

出題した大学の先生でさえ、正解を迷うような問題を出すのはどうかしている。

正解の番号に○印をつけた受験生って、でたらめにつけたのがあるかもしれない。入学試験も案外あてにならないことがあるような気がする。しかし、くじ引きよりはましであると思う。

○動物愛護の精神で、カモシカやイルカなどを保護するという。白鳥やトキなどは、お姫様のように大事にされている。ところが、牛・豚・鶏などはどうであろう。人間が生きるために仕方がないという。

人間は、勝手な理屈をつけるが、生物の世界は結局弱肉強食である。

地球上の人間が、高僧聖者の様に、殺生をやめない限り、戦争はなくならないと思う。

○子殺し、親殺し、小学生の殺人、自殺、心中等の多いこと。ニュースを見て驚かなくなった。人間の世界が狂って来たようだ。人間過剰に対する自然制御であろうか。

○新幹線、空港、発電所などの建設には、騒音、公害などで反対運動のあるのが例である。

ところが、交通事故では、毎年何千人という人が死ぬが、自動車や飛行機の廃止運動は起こらない。

大型トラックが行き交うのを見ると、米の産地では米を食い、麦の産地では麦を食い。北国では林檎を、南国では密柑を食うようになればよいかなと思ったりする。

○テレビは一億総白痴という放送のための費用、視聴のための時間は莫大であろう。

油が汲み尽され、自動車やテレビがなくなったら、静かな世の中になるだろうと思うが、歴史は逆戻りしないそうだ。



### 編集後記

どうにかこうにか発行にこぎつけました。これも一重に会員の先生方の御援助によるものと編集員一同深く感謝して居ります。今後よりよい会報を発行するため一層の努力を惜しまない覚悟で居りますので会員の先生方の御助言御投稿を切にお願い申し上げます。